

# ジェンダー主流化

Gender Mainstreaming

・「ジェンダー主流化」は、  
1995年の国際会議で、世界各国が  
“ジェンダー平等”を目指そうと誓った  
大切な合言葉

・社会のあらゆる制度や仕組みにひそむ男女間の格差をなくしていこうという取組

・埼玉県は令和5年度から取組開始

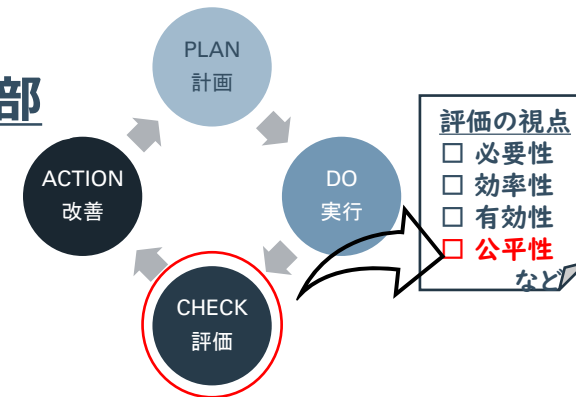


無意識の思い込みで、施策や事業の効果が男女の一方に偏っていないか、改めてチェックしてみましょう。

# 点検のかんたん3ステップ

## ジェンダー主流化視点の事業点検は、普段の事業評価の一部

- ・普段から、実施結果のデータや参加者アンケートなどから効果を検証し、事業のブラッシュアップを図っていると思います。
- ・その際、「男女で偏りがないかどうか」という視点も加えてください。



### STEP 1

● 事業に関する男女別のデータがあるかを確認します

・既に手元にあるデータはありませんか？  
(申込書、相談記録など各種記録、参加者アンケートなど)

・活用できる国や民間の調査データはありませんか？

Q. 男女別のデータがない場合はどうすればよいか (性別の把握が難しい状況)

A. 名簿の氏名から推測するなどの代替策を考えてみます

正確性には欠けますが、まずは男女で差がないか感触を得ることを優先します  
(必要に応じて、アンケート調査や関係者へのヒアリングなどを検討します)

### STEP 2

● データを比べて、男女で偏りがないかをみます

### STEP 3

● 改善策を考えます (違いがあった場合)

裏面のチェックリストを活用して  
自己点検をしてみましょう

# ここをみよう！チェックポイント

## 事業の企画・方針決定

- 事業の企画から意思決定の間に男女が関わっているか
- 責任者や役割分担などを性別で決定していないか
- 

## 広報・啓発

- 広報媒体のイラストなどで一方の性別のみを採用していないか
- 男性は仕事、女性は家庭などの固定的な性別役割分担を連想させる表現となっていないか
- 

## イベントなど

- 誰もが参加しやすい条件・環境が整っているか
- 男女双方のニーズを満たすプログラムになっているか
- 性別による何らかの（役割や好みなど）決めつけはないか
- 

ジェンダー主流化視点の事業点検って、こんな感じでいいのかと思うかもしれませんが。日頃、事業を実施する中で、実はすでに取り組んでいることがあるはずです。

## ハード整備など

- トイレ、更衣室等の位置、動線は適切か
- トイレは混雑時にも対応できる数があるか
- 共有スペースに死角がないかなど、安全に配慮されているか
- 照明や街灯、防犯カメラなど必要に応じて設置されているか
- こども連れの男性がおむつ替え等で利用できる場所はあるか
- 

## 相談業務などにおける配慮

- 必要に応じて同性の相談員が対応するなど、性別・性差への配慮をしているか
- 

## その他

- 

※これらは一例です。この他にも、事業特有のチェックポイントがあるかもしれません。点検に慣れてきたら、上記以外にも確認すべき点がないか考えてみましょう。

事業点検の実施方法のヒントなど、詳細は「ジェンダー主流化事業点検の手引き」をご覧ください。